

東教育財団だより

発行所
公益財団法人
東教育財団
大阪市中央区南本町
2丁目2番11号
堀筋本町西尾ビル6階
電話06(6262)7363
発行責任者 沼田 宏

理事会・評議員会の開催

東教育財団では、五月一日に理事会、六月一日に評議員会を開催し、平成二九年度事業報告及び決算並びに監査報告を審議の上承認し、①評議員、理事及び監事の一部選任替え②評議員及び役員候補者選考委員会委員の一部選任替えを行いました。

○平成二九年度事業報告

学校教育事業助成

六、四〇〇、〇〇〇円

(助成件数二二件)

- ・幼稚園 (九件)
一、八〇〇、〇〇〇円
- ・小学校 (八件)
二、八〇〇、〇〇〇円
- ・中学校 (四件)
一、八〇〇、〇〇〇円

社会教育事業助成

四、五五〇、〇〇〇円

(助成件数一五件)

- ・社会教育 (二〇件)
四、〇五〇、〇〇〇円
- ・生涯学習 (五件)
五〇〇、〇〇〇円

地域文化事業助成

五、七〇〇、〇〇〇円

(助成件数四四件)

- ・地域文化 (二八件)
三、七〇〇、〇〇〇円
- ・まちづくり (一六件)
二、〇〇〇、〇〇〇円

○平成二九年度決算

収入(経常収益計)

三二、三八一、二三二円

- ・基本財産利息
三二、三八一、一四〇円
- ・受取利息収益
八二円

支出(経常費用計)

三二、四〇一、七六二円

・事業費計

二二、二八六、八一九円

【支払助成金】

一六、六五〇、〇〇〇円

【その他】

四、六三六、八一九円

・管理費計

一〇、一一四、九四三円

差引(当期経常増減)

▲二〇、五四〇円

○評議員の一部改選

評議員は、東地区の連合振興町会会長から選任することを原則としている。この度、任期満了に伴う改選により連合町会長の一部に交代があったので、評議員についても一部選任替えを行った。

◆辞任した評議員

米田 良成

(前久宝連合振興町会長)

山田 忠治

(前南大江西連合振興町会長)

◆新たに選任した評議員

濱口 幸太郎

(久宝連合)

振興町会長

三木 啓二

(南大江西連合)

振興町会長

○理事の一部改選

理事の一人に中央区副区長を選任しているが、この度、大阪市の人事異動により、副区長が交代



(六月十五日開催の評議員会会議風景)

したので、理事の選任替えを行った。

◆ 辞任した理事

齋藤 拓也

(中央区副区長 → 此花区副区長)

◆ 新たに選任した理事



木口 剛一
(中央区副区長
↑ 東成区副区長)

○ 監事の一部改選

監事の一人についても、次の通り選任替えを行った。

◆ 辞任した監事

井上 俊夫 (元財団事務局長)

◆ 新たに選任した監事

長谷 隆雄 (前財団事務局長)

財団事務局長が交代しました。

六月一日付けで長谷隆雄が事務局長を退任し(長谷隆雄は六月一五日付けで監事に就任しました)、同日付けで沼田宏が事務局長に就任しました。

助成事業の紹介

平成二九年度に助成した事業の具体例を紹介します。

学校教育事業助成

《親子活動》



(親子で「稲刈り体験」(写真左) 「お茶遊び」(写真右))

愛珠幼稚園では、和室に園所有の掛軸や花を飾り、保護者と一緒に「お茶遊び」を行い、礼儀作法や感謝の心(日本の文化)を共に学ぶなど、各種園行事に親子で参

加し活動する機会を意識して設け、親子活動を深めた。

(助成額一五万円)

《音楽活動推進事業》

南大江小学校では、音楽活動に親しみ楽しむことができるよう、『多様な楽器に触れ演奏する』『歌唱指導に活用し、歌うことの幅を広げる』などに取組み、また、保護者・地域に向けた発表会を心の通い合う・触れ合う場とした。



(音楽活動の発表風景)

(助成額二五万円)

社会教育事業助成

《区民の体力づくりとスポーツレクリエーションの振興事業》



(ファミリージョギング大会スタート風景)

中央区スポーツ推進委員協議会では、①区長杯ソフトボール大会 ②ファミリージョギング大会 ③ニュースポーツ講習会等を開催し、区民にスポーツの楽しさやレクリエーションへの理解・認識を深めるとともに、区民相互の親睦と連帯感を高めた。

(助成額二五万円)

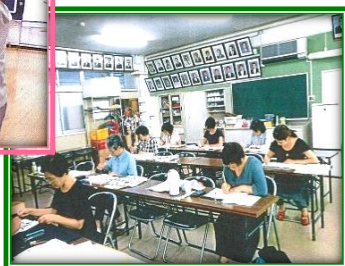
生涯学習事業助成

《南大江小学校生涯学習ルーム》

書道教室（写真Ⅱ右）やマグネット作りのほか、新講座として年齢を問わず参加できるフラダンス（写真Ⅱ左）を本場ハワイで修業した指導者を招いて開催し、地域住民の交流を深めた。



(生涯学習ルーム活動の様子)



(助成額一〇万円)

地域文化事業助成

《Minamiこども教室》



(マンツーマン指導による学習)



(課外学習の料理教室)

中央区に在住の外国にルーツを持つ小学生を対象に放課後学習支援教室を開催した。また、課外

学習として、料理教室、ダンス体験等を実施するとともに、地域の餅つき大会や盆踊りにも参加した。この事業も五年目を迎え、地域での認知度も深まり、子ども達の定着度が高まるとともに、保護者との意思疎通も円滑に進むようになった。

(助成額一五万円)

《愛日文庫曝書・勉強会》



(開平小学校地下1階廊下での曝書光景)

愛日教育会では、愛日文庫を次の世代につなげるため、毎年八月に曝書を行うとともに、四・一〇・

一二・二月の四回、勉強会を開催した。

(助成額五万円)

地域まちづくり事業助成

中大江地域《子育て支援

親子の育ち愛教室》



中大江地域の乳幼児・未就園児とその保護者を対象に各種子育て支援事業を毎月第二金曜日に行い、子育て世代の交流と不安解消を図るとともに、地域で取り組む子育て支援気運の醸成を行った。

(助成額一〇万円)

大阪の町人魂

— 開放性・合理性・敏捷性 —

『東教育財団だより』第七号（平成二八年秋号）の本コラム「大阪弁面白考—ことばは文化—」で次のように書いた。

「大阪弁は大阪というまちの文化の現れであり、大阪の文化には『開放性』『合理性』『敏捷性』の三つの特徴があるといわれる。では、大阪弁にはこの三つの特徴がどのように具現されているのか。」

ところで、大阪人は、誰もが同等・平等であるという思いが強く、人間関係が開放的で同化力がある。そのため、ややもすると他人に対して馴れ馴れしくなりがちである。

また、大阪人は、形式よりも合理性を大切にしている。だから、建前論を嫌がり本音を貴ぶ。

さらに、大阪人は、いらいちで敏捷性に富む。悪く言うところ、せっかちで落ち着きがない。

これら大阪人の「開放性」「合理性」「敏捷性」は、大阪の歴史と地

勢が然らしめたものである。

開放性

大阪は海に向かって開かれたまちであり、古代から海の向こうから渡来する人や文化を常に迎え入れてきた。海を垣根や障壁と考えず通路と見て、海の向こうには素晴らしい世界があると想像していた。気質的に心が外に向かって開いていた。



（イメージが合うので、三保の松原の写真を借用した）

大阪のまちは、蓮如がつくった寺内町がはじまりであることから、大阪人には浄土真宗の信者である門徒が多い。浄土真宗の開祖親鸞は自分の教えを信じる者を御

同輩と呼び、同じ位置に立つ仲間のようになした。また、真宗の寺は村の民衆のカネで建てられ、維持されておき、仲間・大衆の寺という性格を持っていた。これらのことが大阪人氣質に投影した。

合理性

古代、難波と呼ばれた上町台地で生活する人々の生業は漁業であったから、毎日のように海に出なければならなかった。そのため、風の向きや強さ、潮の流れ、操る舟の性能などいろいろな条件を計算した。海に乗り出すためには合理的な計算が必要であった。

大阪人には門徒が多いが、親鸞は人間はみんな平等で、特別な修行や出家をしなくても、「南無阿彌陀仏」を唱え、仏にすがれば救われると説いた（他力本願）。また、今でいう科学を説き、迷信の類も否定した。このように浄土真宗の教えは合理的で、近代性に富んでいた。

江戸時代、大坂は「天下の台所」といわれ、株仲間などの商権が独占的に与えられ、諸国の産物は一旦大坂の地を通過しないと、全国の消

費者の手に届かないという構造がシステム化されていた。このように商業中心の商品経済が精密化した社会は、人間に物事を厳密に考えることを教える。そこには観念的思弁性が入り込むスキがなく、人はあらゆる事柄を合理的に考えるようになる。

敏捷性

農耕文化は収穫できるまで待つことを前提にしているが、漁業は待つていたら魚が逃げてしまう。魚が回遊してきたときには素早い対応が求められる。

商都大坂の本質は、卸であり流通業であった。流通業は物を右から左に効率よく素早く動かさなければならぬ。商売は早い者勝ちであり、すばしっこさが求められる。抜け目なく、ちやつかりと、いち早く行動することが求められたことから、大阪人は、敏捷性に富み、性急になった。

（槇野 勝・記）

*このコラム欄への投稿を募ります。
テーマは「おおさか」です。一五〇〇字程度
度をお願いいたします。